

「日本人標的」の懸念なお

朝日新聞 13.1.29

ビンラディン容疑者の死後、アルカイダを率いるザワヒリ容疑者は昨年10月末、イスラム過激派サ

イトで「イスラムと戦う国の人間を誘拐し、我々の仲間の釈放を求めよ」と声明を出した。

アルジェリアの人間質事件でアルカイダ系の犯人グループがマリからのフランス軍撤退と共に、米国のテロ事件で服役中のエジプト人宗教者の釈放を求めたのは、ザワ

ヒリ容疑者の声明を受けたものとみられる。

アルカイダは各地にグループがあるが、それを統合する司令部があるわけではなく、それぞれが独立して動く。過激派に詳しいエジプトのアハラム戦略研究所のデー

ブトのアハラム戦略研究所のデーア・ラシュワン所長はかつて「アルカイダとは、理念と手法を模倣するブランド名のようなものだ」と語った。

既存の組織だけでなく、アルカイダを模倣する個人や小集団は欧米にもいる可能性がある。各地のアルカイダに「理念」を与えるのは、過激派サイトにあふれる「殉教者ビンラディン」の説教や言葉だ。

ビンラディン容疑者はイラク戦争後の03年10月、「イスラム教徒に対する不正の戦争に参加する国々」として英国、スペインなどと共に日本を名指した。10年7月、ペルシャ湾で日本の原油タンカーが損傷を受けた事件で、アルカイダ系組織が「日本は米国の同

盟国で、ビンラディン師がいうように聖戦の標的だ」との犯行声明を出した。

イラク戦争後も米軍が継続した軍事作戦で、多くのイラク人が犠牲になった。自衛隊のイラク派遣も戦争協力ととらえられている。

「自衛隊は一人のイラク人も殺していない」という事実は、日本からアラブ・イスラム世界に効果的に発信されたとはいえない。

「日本は敵」というメッセージが独り歩きするなら、日本人を標的とするテロが起こる可能性は残る。

(機動特派員・川上泰徳)